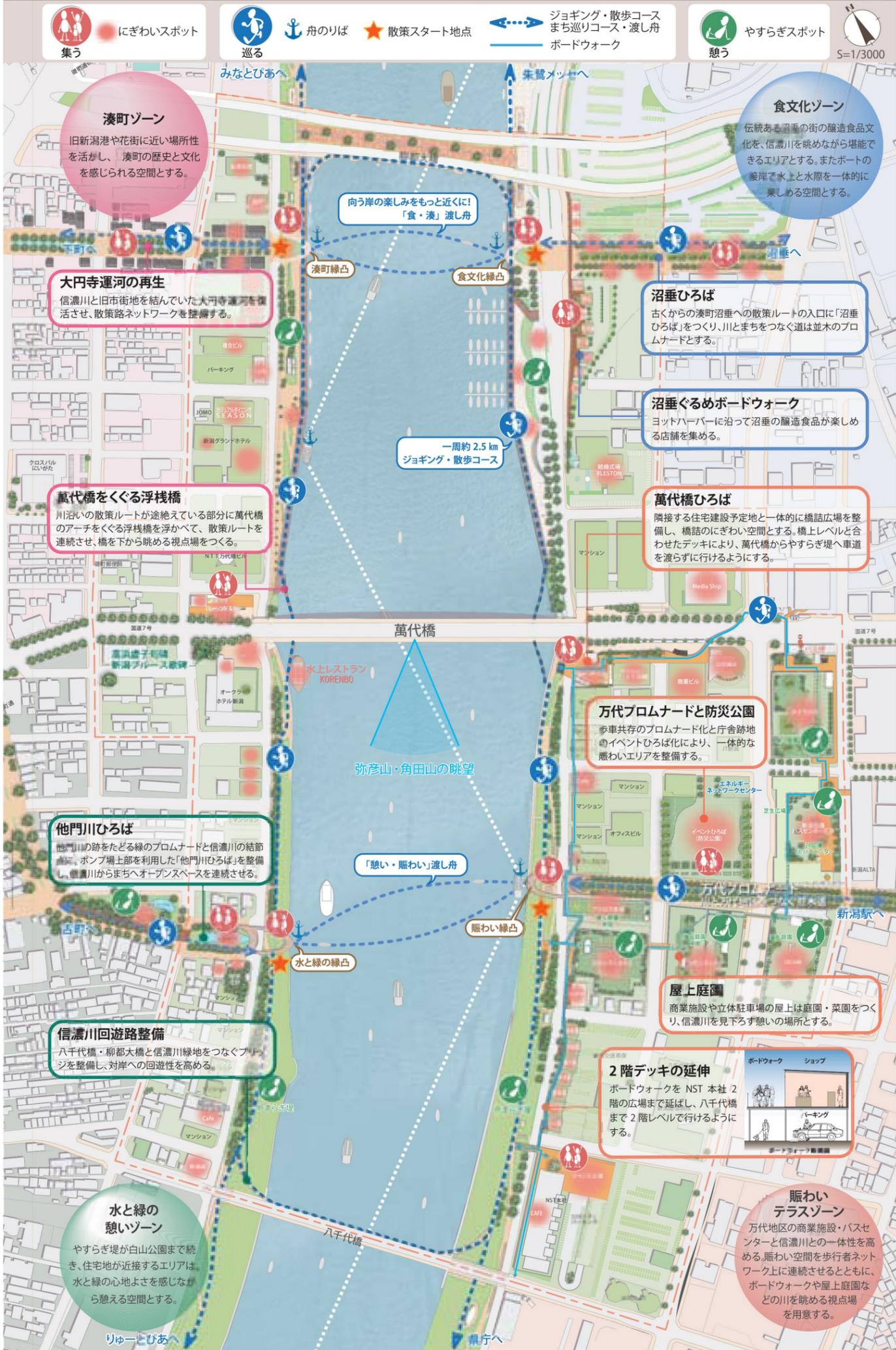


にいがたセントラルパークのアクティビティ・楽しみ方



川のもとに人々を導きだすシカケ
まちから川に向かう歩行者通路とプロムナードや、川沿いに設けられた緑凸や広場等により、まちで暮らす人々やまちを訪れた人々は自然と川へと導き出され、集い、人とふれあい、川と共に暮らす楽しみを味わうことができる。



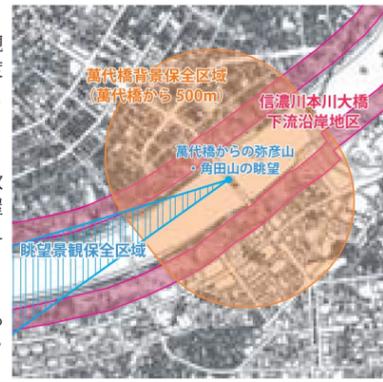
川に沿って人々が楽しみをみつける
川沿いにデッキ空間を連続させることで、賑わい店舗などの集積を図り、ボードウォークが形成され、人々は『巡る』楽しみを手に入れることができる。また川の各緑凸を起点に各ゾーンに繰り出したり、渡し舟で対岸へ足を伸ばす。萬代橋を中心としたセントラルパークが人々の日常に溶け込む。



川のもとで人々が安らげる場
川沿いの緑地や沿岸の建物の屋上に、座ったり寝そべてみたりとくつろげるスペースを充実させ、都心でありながら自然と触れ合える貴重な場として、人々は『憩い』と『安心』を実感することができる。

萬代橋・信濃川に配慮したきめ細やかな景観制度の制定

- 萬代橋の背景を保全する
重要文化財指定区域から500mの範囲を「萬代橋背景保全区域」として景観地区に指定する。一定高さ以上(例えば10m)の建物について事前協議制度を導入し、萬代橋と調和する建物デザインに誘導する。市民、地元業界団体、行政、専門家からなる「萬代橋景観まちづくり協議会」を設置して協議を行う。
- 信濃川沿岸の景観を整備する
信濃川本川大橋下流沿岸地区の特別区域は、萬代橋周辺の区間から順次景観地区に指定していき、沿岸の建物について、高さ、色彩、形態意匠、屋外広告物の制限をかけ、建物緑化を義務付ける。また一定高さ以上(例えば30m)の建物については、事前協議制度を導入する。
- 萬代橋からの眺望を保全する
萬代橋からの眺めを守るために「眺望景観保全区域」を設ける。萬代橋から見える弥彦山・角田山への眺望を遮らないように眺望範囲に入る建築物・工作物の高さを制限する。



環境と防災に配慮したエリアエネルギー管理 (AEM)

- 低炭素地域をめざすエネルギー管理
地域エネルギーネットワークセンターをつくり、スマートグリッドによりエリア全体のエネルギー需要量、供給量をリアルタイムに監視、平準化する。
- 屋上の有効活用
エネルギープラントによる設備の集約化で空いた屋上や、公共交通へのシフトにより台数を減らせる駐車場の屋上は、信濃川を見下ろす庭園や菜園として地域に開放し、市民や来訪者の憩いの場として有効活用する。
- 防災機能の強化
津波や高潮などにより浸水の恐れのある計画地周辺は、デッキや立体駐車場を一時的に避難場所として確保する。イベント広場や緑凸は、有事の際に屋外防災拠点の役割を担う。

